

延岡市DX推進計画(案)

～ 概要版 ～

令和〇年〇月
延岡市情報政策課

計画策定の背景

Q：「DX」を分かりやすく教えて！

A：デジタルの力を使って、生活や仕事をより良く変えていくことです。事例としては、スマートフォンが私たちのライフスタイルを変えたことが挙げられます。

【国・県の動向等】

国全体でデジタル社会への転換が加速しており、AI（人工知能）やデータの活用、情報システムの標準化等が推進されています。宮崎県も「みやざきDXプラン」を掲げ、県全体のデジタル化を目指しています。

【本市の課題】

少子高齢化により働く世代が減り続けており、将来の担い手不足が大きな課題です。限られた人員で、質の高い行政サービスを維持し、さらにより良いものにしていく必要があります。

【これまでの取組と課題】

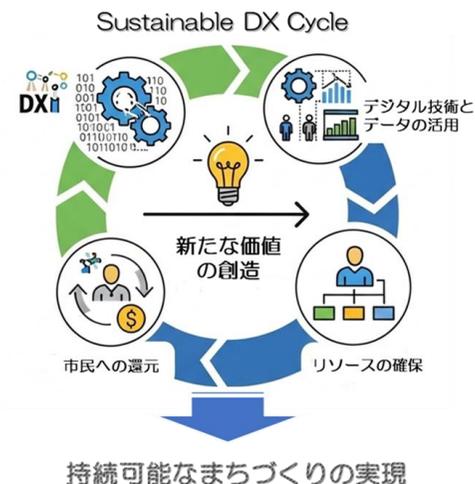
前計画では、防災・福祉・子育てなど各分野でデジタル化を進め、今後のDX化の基盤となるデータを積み重ねてきました。しかし、市民アンケートでは、デジタル化の取り組みに対する満足度が低いことが分かりました。デジタル化の良さを市民の皆さんに実感してもらうことが、新しい課題として見えてきました。

本市が取り組むDX

Point

「業務の効率化」と「市民サービスの向上」という「DXの好循環(サイクル)」を力強くまわし続ける

本市のDXの取組みに対する市民の皆様の満足度を向上させるため、市の業務を効率化し、そこで生みだされる時間や人手を、更なる市民サービスの向上や新たなサービスの提供のために使う「DXの好循環」を力強くまわし続けます。



目指すべきビジョン(将来像)

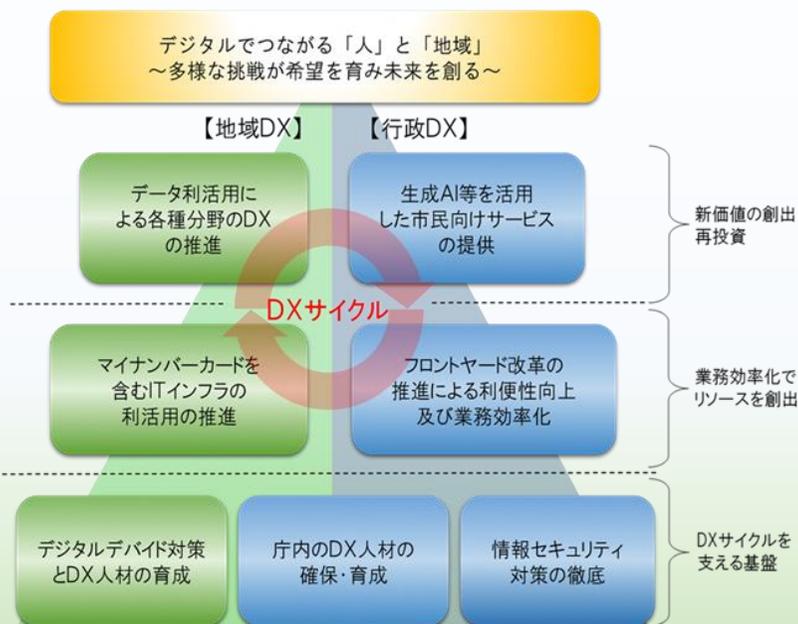
Point

デジタルでつながる「人」と「地域」～多様な挑戦が希望を育み未来を創る～

デジタルの力で、行政サービスの利便性向上はもちろん、人と人、人と地域の温かいつながりを育み、誰一人取り残されることなく、すべての市民が豊かさを実感し、未来への希望が育まれるまち「のべおか」を目指します。

Point

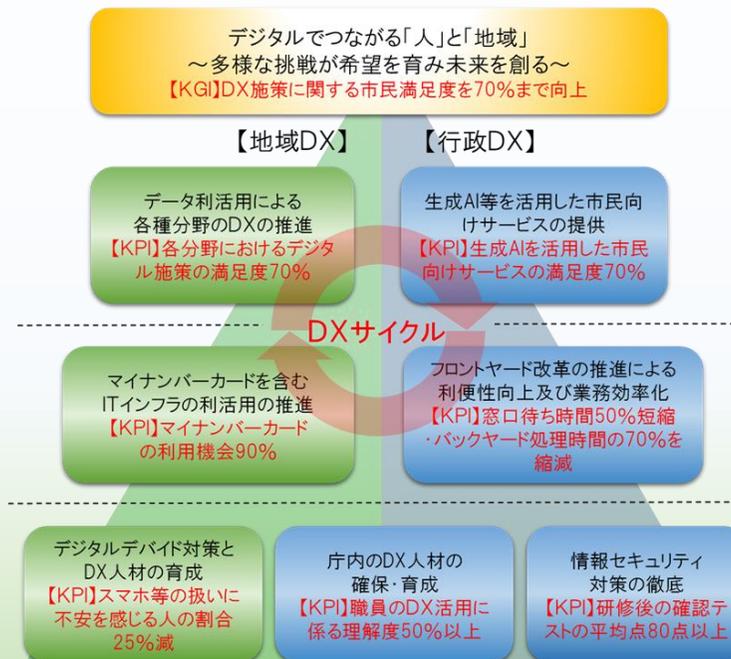
7つの重点方針で「DXの好循環」をまわし目指すべきビジョンを実現



デジタル技術を活用して、市の業務を効率化し、生まれる時間や人手を、更なる市民サービスの向上等のために使う「DXの好循環」を力強くまわすために、地域と行政の両面に重点方針を定め、私たちが目指すビジョン（将来像）の実現を目指していきます。

Point

7つの重点方針にKPIを設定し、KGIの達成と目指すべきビジョンを実現



7つの重点方針に数値目標（KPI）を設定し、進捗管理を行うことで、目指すべきビジョン（将来像）の実現と、「DX施策に関する市民満足度を70%まで向上させる」という最終目標（KGI）の達成を目指します。

Q：「KGI」と「KPI」の違いを教えてください！

A：例えば、ダイエットのプロジェクトで「3か月で○kg減量」という最終目標（KGI）を立てた場合、「食事を制限する」や「運動をする」などの重点方針に対し、「1日のカロリー摂取○Kcal以下」や「毎日○歩以上歩く」などの数値目標（KPI）を立てます。

重点方針とKPI

重点方針に設定する数値目標(KPI)は以下のとおり。数値目標を達成することで重点方針の推進、ひいては目指すべきビジョン(将来像)と最終目標(KGI)の実現を目指します。

デジタルでつながる「人」と「地域」
 多様な挑戦が希望を育み未来を創る

【KGI】DX施策に関する市民満足度を70%まで向上

重点方針	KPI	現状値	目標値
データ利活用による 各種分野のDXの推進	各分野におけるデジタル施策の満足度	44%	70%
	各分野におけるデジタル施策の認知度	65%	95%
マイナンバーカードを含む ITインフラの利活用の推進	マイナンバーカードの利用機会	70%	90%
	ぴったりサービスを活用したオンライン申請の利用率	40%	90%
デジタルデバйд対策と DX人材の育成	デジタル機器の取り扱いに不安を感じる人の割合	45%	20%
	市民等のデジタルリテラシー	25%	75%
生成AI等を活用した市民向け サービスの提供、業務効率化	生成AIを活用した市民向けサービスの満足度	—	70%
	生成AIの業務利用における削減効果(人・月)	—	1時間以上
フロントヤード改革の推進による 利便性向上及び業務効率化	バックヤード処理時間	—	70%削減
	窓口待ち時間	—	50%短縮
	オンライン申請手続きの市民満足度	—	70%
庁内のDX人材の 確保・育成	DX人材育成計画に定める(仮)DX推進リーダーの育成	—	25人
	職員のDX活用に係る理解度	—	50%以上
情報セキュリティ 対策の徹底	研修後の確認テストの平均点	—	80点以上
	重大インシデントの発生件数	—	0件

目指すべきビジョン(将来像)に設定した最終目標(KGI)や、7つの重点方針に設定した数値目標(KPI)の達成を図るため、各重点方針で取り組む主な事業(重点事業)を位置づけており、重点事業にスケジュール上の目標(マイルストーン)等を設定して、それぞれの取り組みを着実に進め、施策の推進を図ります。

【地域DX】

データ利活用による各種分野のDXの推進

【重点事業】交通分野、救急防災分野、健康分野、子育て分野、教育分野、産業分野におけるDXの推進

マイナンバーカードを含むITインフラの利活用の推進

【重点事業】マイナンバーカードを活用した新たなサービスの提供、データ連携基盤の活用・運用体制の検討

デジタルデバイド対策とDX人材育成の推進

【重点事業】スマホ教室・サロンの開催、デジタル支援員の任命制度の導入検討、ITカレッジやこども未来創造機構等におけるデジタル人材の育成

【行政DX】

生成AI等を活用した市民向けサービスの提供、業務効率化

【重点事業】生成AI等を活用した市民向けサービスの導入検討、生成AIの利用に関するシニア向け教室の実施、生成AIを活用した業務効率化、EBPMの推進、情報発信の手法検討

フロントヤード改革の推進による利便性向上及び業務効率化

【重点事業】フロントヤード改革の横展開、ワンストップ窓口の検討、公金収納に係るeL-QRの活用、行政手続きのオンライン化の推進

庁内のDX人材の確保・育成

【重点事業】人材育成方針の策定、職員研修の実施、外部専門人材の確保

情報セキュリティ対策の徹底

【重点事業】セキュリティ研修の実施、情報セキュリティポリシーの改訂、ICT-BCPの見直し

Q: 「マイルストーン」を分かりやすく教えて！

A: 例えば、家を建てる場合、「〇月までに土地を買う」、「〇月までに設計図を確定する」などのスケジュール上の目標です。

DXで、あなたの暮らしはこう変わります

～デジタルを"便利な道具"として使い、誰もが安心して暮らせるまちへ～

交通分野

毎日の移動がもっと便利に！

いまの課題

移動手段が少なく、
通院や買い物が大変

これからは

・北浦町で運行しているAIを使った「乗合タクシー」の横展開も含めた、新しい交通サービスで移動を便利にします。



防災分野

もしもの時も安心！防災対策

いまの課題

災害時に必要な情報が届くのか不安

これからは

・スマートフォンで、災害の情報を受け取ったり、避難所の情報や家族の安否確認ができる「防災アプリ」を広めます。



子育て分野

子育てを温かくサポート！

いまの課題

子育てに不安を抱える家庭に必要な支援情報が届きにくい

子育て関係の手続きが難しく時間がかる

これからは

・関係団体等と連携して、不安を抱えるご家庭を見つけ、必要な支援を届けます。
・母子手帳をデジタル化します。



健康・福祉分野

健康で、長生きできるまち！

いまの課題

病気の発見が遅れると重症化のリスクがある

医療従事者の負担増加

これからは

・データ分析で健康リスクの早期発見を支援します。
・病院等でマイナンバーカードを使用し、医療費助成の資格確認ができるようになります。



DXで、あなたの暮らしはこう変わります

～デジタルを"便利な道具"として使い、誰もが安心して暮らせるまちへ～



行政手続き

市役所に何度も行かなくてOK！

いまの課題

引っ越しや介護の手続きで、
何度も窓口をまわる

市役所の開庁時間に窓口に行き
時間がない

キャッシュレス化が不十分

これからは

- ・窓口改革を推進して、市民サービスの向上を図り、一つの窓口で手続きが完了する「ワンストップ窓口」の導入を検討します。
- ・スマホからオンラインで申請ができる手続きを500手続き増やし、24時間365日、どこからでも申請が可能にします。
- ・後期高齢者医療保険料や介護保険料などの支払いを、スマホなどからキャッシュレスで行えるようにします。



デジタル活用支援

だれ一人取り残さない！

いまの課題

デジタル化がどんどん
進んでいけれど、スマホなどのICT機器の扱いが不安

これからは

- ・スマホが苦手な方には「デジタル支援員」がサポート。
- ・公民館などで「スマホ教室」を定期開催するほか、気軽に続けて学べる「サロン」を開催します。



セキュリティ対策

安心・安全！

いまの課題

個人情報適切に取り扱われ、情報漏洩のリスクがないか不安

これからは

- ・職員への毎年の研修でセキュリティ意識を向上させます。
- ・サイバーセキュリティ対策を盛り込んだ、セキュリティポリシーを適宜改定します。



計画の位置づけ

市の最上位の計画である「長期総合計画」との整合を図ります。また、本計画は、国が法律（官民データ活用推進基本法）において、市町村が策定することを努力義務としてしている「官民データ活用推進計画」としても位置付けます。

計画期間

令和8年度から令和12年度までの5年間
 ※国の方針や動向、施策の進捗等により、必要に応じて随時計画の見直しを行います。

計画推進体制

本計画を着実に推進していくために、DXの司令塔としての役割を果たす組織を設置したうえで、全庁的・横断的な推進体制を構築します。最高意思決定機関として「DX戦略推進本部」を、司令塔として「DX戦略推進部会」を設置し、実行部隊の「アクションチーム」が個別施策を進め、副市長(CIO※)が全体の進捗管理を担います。この体制で情報セキュリティを確保しつつ、計画を着実に実行していきます。

※CIO：「Chief Information Officer」の略で、組織の情報戦略等を統括する最高責任者。

